

# 会 議 録

## 1 会議名

令和7年度第1回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【自主的な審議】

・直江津まちづくり構想について（公開）

### 【報告事項】

・廃校利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査の実施について（公開）

### 【協議事項】

・地域協議会だよりの編集委員について（公開）

## 3 開催日時

令和7年4月8日（火）午後6時30分から午後8時00分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

## 5 傍聴人の数

3人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、青山委員、稲川委員、今川委員、鴨井委員、小玉委員、関澤委員、田中（実）委員、田中（由）委員、土肥委員、保坂委員、増田委員（欠席者4名）
- ・魅力創造課： 志賀課長、藤村副課長、岡田係長、井部主任、津島主事
- ・事 務 局： 北部まちづくりセンター  
内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

## 8 発言の内容

### 【勝島副所長】

・会議の開会を宣言

昨年度に辞職された古谷委員の補欠委員について、五智地区町内会長連絡協議会長の

柴山良一委員が選任されたのでご承知おきいただきたい。本日は、都合がつかず欠席となっている。

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

4月の人事異動により、事務局の体制が変わったので、職員からご挨拶をさせていただく。

- ・北部まちづくりセンター職員挨拶

本日は、屋台会館等を活用した社会実験の実施結果の説明に、魅力創造課が来ている。

#### 【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：稲川委員、今川委員に依頼

議題【自主的な審議】直江津まちづくり構想について、屋台会館等を活用した社会実験の説明を魅力創造課よりご説明いただく。

#### 【魅力創造課：志賀課長】

- ・挨拶

魅力創造課では、通年観光ということで、高田、春日山、直江津の三つの地区でやらせていただいている。

屋台会館の社会実験については、年度を跨いでもう一年間続くので、機会を捉えてまた皆様とお話していきたいと思っている。この場に限らず何かあればまたご連絡をいただきたい。

#### 【魅力創造課：井部主任】

- ・資料No.1「直江津屋台会館等を活用した新たな観光産業創出社会実験業務（令和6年度の状況及び令和7年度の予定）」に基づき説明

#### 【磯田会長】

今ほどの説明に対し、質疑等はあるか。

#### 【古澤副会長】

屋台会館の活用については、私たちが数年前から空いているのはもったいないと思っていた。利活用を検討していただいて良かったと思っている。

やっていることはいいことだと思っているが、まだ宣伝不足ではないかと思っている。私はたまたま地域協議会に入っているのを知っているが、10月12日の総合防災訓練

のときに、初めて町内会長にチラシが配られたので、各町内の町内会長のほとんどが知らないような状況である。

町内の方々が何も知らないのではなく、町内を巻き込んで、町内の方々に少しでも出ていただくのが良いのではないか。先日、私の町内で総会があったが、高齢者が48.5%である。直江津地区はほとんどそういう地域になってきているので、高齢者も出られるようなものを出していただくのが良いと思う。

また、町内会として何ができるかというような、意見を聞く会等をやってもらえばいいと思う。実際に、私の町内でも、敬老会を開催しても皆さん集まらないので、一年かけて皆さんと一緒に楽しむことを作っていこうと話合いの場を持っている。私たちも、多くの人を楽しめる有効な屋台会館の利活用ができればと思っているので、町内会の意見を聞くなどの連携も検討いただければと思う。

#### 【魅力創造課：井部主任】

町内会の皆さんからご参加いただけるような取組は、是非進めていきたいと思っている。また、町内への周知不足については、ご指摘のとおりと思っている。回覧がいいのか、どういった方法がいいのかは、少し検討させていただいて、町内へも情報が行き渡るように、また、こんなことをやってみたいという意見を、町内の方からもいただけるように検討していきたいと思う。

高齢者の方々からどうやって来ていただくかというところは、まだ未定ではあるが、月末マルシェの中で、朝活や健康をテーマとしたことができないかと思っている。どんな形で実現できるかは、まだわからないところがあるが、そういったご意見も反映できるように進めていきたいと思っている。

#### 【保坂委員】

事業内容のところに、「うみがたりへの来場者をターゲット」とあるが、結果を見ると、県外、あるいはうみがたりの来場者は少ないとなっているので、そのところを今後どのように修正していくのが一点。

それから、うみがたりに来たお客様が、何を求めているのかアンケートをしたことがあるかお聞きしたい。飲食のブースはあるが、うみがたりに来る方は、長野県や群馬県の方なので、食事は海鮮を求める方が多い。お昼頃来る方は、大体「海鮮の美味しいお店はないですか。」と聞かれる。私もキッチンカーを出していたので、よくその話を聞いたが、うみがたり周辺にはない。あれば、それが核となって、イベントをやっても人が

出てくると思うが、核がなければ、近所の人たちを呼んでも、単発で終わってしまい、観光につながらないと思う。今実験をやっているのも、そういう観点からもやっていただければ、地元の方や県外の方が来て交流できる、観光に結びつく、要はお金が落ちるといふ形になると思うので、そこのところをもう少しお願いしたい。

**【魅力創造課：井部主任】**

ご指摘のとおり、うみがたりからの誘客を目的としていると言いながら、市外からの集客や、うみがたりからなかなか引っ張れていないという現状は、資料にも記載させていただいたとおりである。

うみがたりからの誘客については、屋台会館でも何かやっていることが動線的に伝わりづらかったり、信号の関係で、横断歩道を渡らずに駐車場側に渡ってしまい、足を伸ばしてもらえないというところがあるので、目の前で何かやっているという印象をもう少し出せれば、来ていただけるのではないかと考えている。

うみがたりに来ている方へのアンケートについては、事業組み立てのときに少し参考にした部分もあるが、明確に今の状況は承知していない。ただ、イベントをやる中で、来場者さんからのアンケートを聞くと、例えば、直江津の海で何をやりたいかということでは、直江津らしい釣りといった内容が挙げられているので、今年度は、釣りや直江津らしさである海鮮等についても、内容に落とし込んでいければと考えている。

**【田中（実）委員】**

この社会実験業務について、本日、この資料を二回ほど拝見させていただいた。八つほどお聞きしたい。

一つ目、イベント来場者をどのように誘客するのか全然見えない。うみがたりの来場者を当てにしては駄目である。

二つ目、来場者のターゲットが不明である。

三つ目、市内の来場者の訪問がないのに、県外者を当てにしては問題にならないのではないか。

四つ目、後片付け等のことを考えると、やはりキッチンカーになってしまうのだろうが、テントを張ることも必要である。

五つ目、休みたい、飲食をしたいと思う仕組みが全然見えない。

六つ目、海を活用したコンテンツも良いが、将来的に望みはあるのか。

七つ目、屋台会館には全然駐車場がないということ。

八つ目、私が春日地区地域協議会委員のときに、二日間イベントを実施させていただいた。内容としては、アルパカの公開、演歌歌手の出演、高原野菜の販売、地元の伝統芸能の披露を行い、二日間で2,000名以上が来客した。実施主体は、春日商工振興会である。参考にさせていただければと思う。

**【魅力創造課：藤村副課長】**

イベントへどのように誘客していくか見えないという点については、うみがたりに関して先ほどもご指摘いただいたので、そこについては今後も強化していきたいと思っている。

周知をどのように図ったかについては、今日ご説明の資料の6ページに入れさせていただいたとおりであり、今後も様々な手法でイベントの誘客に関して図っていききたいと思う。また、SNS等も活用して、フォロワー数を増やしながらか情報を発信するツールを育てているようなところもあるので、そこについても力を入れてやっていきたいと思っている。

どのような方をターゲットにしていくのかが見えない、うみがたりの来場者を当てにしていけないというお話もあったが、私どもとすると、直江津の特長である海をいかしていけないかと考えていて、そういう意味でいうと、うみがたりに来ているお客様は、比較的海が目的だったり、長野県内から来ている方が多いのではないかといいところもあり、そういった方々をターゲットにしたらどうかと考えている。

市内の方があまり来ていないのに、外の人を呼べないのではないかといいようなお話もあった。これまでやってきた中では、逆に市内の方の来客が非常に多く、最初のイベントでも2,700人ぐらい来られたが、市外の方にどうやって来てもらえるかといいいところが今の課題となっている。

主軸としては、一回目、二回目のイベント等では、先ほどもご指摘があったとおり、海鮮の食がないといいいところで、海鮮の食のコンテンツを見せた中で、長野県等に広報を打って周知を試みたが、時期的なものもあったといいい思うが、なかなか集客が難しく、今後はいい時期にしっかりといろいろな手を打って集客していきたいと考えている。

テントを張ることも必要ではないかといいいところについては、今もキッチンカー以外にもテントを張ったブースを用意しながらやっているので、ご理解いただきたいと思いいう。

海に関して、将来の望みがないのではないかといいいことだが、上越地域で見たときに、直江津の特長としては、海があって成り立ってきたまちといいいことや、海周辺に形成さ

れてきた街並みは特長だと思うし、今、うみがたりに来ているお客様は、海を求めてこの地域に来ているというところも少なからずあると思う。磨き上げていくことで、外のお客様から来ていただけるというところは、私どもからすると、まだ諦めるところではないのではないかと考えているので、そこをしっかりといかしていきたいと思う。

駐車場がないというご指摘もいただいた。駐車場については、確かに今ご案内している、屋台会館自体の駐車場というのは非常に台数が少ないが、うみがたりとも連携させていただいており、屋台会館の駐車場がいっぱいになっているときには、うみがたりの駐車場を利用させていただきながら、集客についても連携してやっていくというような形でお話をしながら進めている。

最後に、委員の実施されたイベント等については、今後の参考にさせていただきたいと思う。

#### 【土肥委員】

出店者側としての意見を言わせてもらいたい。

最初は屋台会館を盛り上げたいという気持ちに賛同して、組合としても、お店としても出店させてもらった。感想としては、もっともっとできる、可能性しかないと思っている。なので、もう少し地域の人を味方につけていってほしい。盛り上げたいという気持ちの人たちが大勢いるのに、その気持ちをないがしろにしないでほしい。イベントにふわふわドームがあったが入れない。何のためにあるのかというような、細かなところもそうだし、大きいところもそうだし、出店者さん、出店料を出して直江津を盛り上げたいと思っている人の気持ちを味方に変えて、次の力にしてほしいと強く思う。

うちはお菓子屋なので、菓子組合をもっと巻き込む、漁業系の組合を巻き込む、いい意味でどんどん巻き込んでほしい。そうすると、直江津の人たちは、口は悪いが、すごく力になる人たちだと思うので、そこを味方にしてしまえば、すごく力になると思う。

私は神奈川から結婚を機に移住して来て、船見公園へ行くと、海に若者たちがたくさんいる。それは、長野県にはないこちらの観光資源だし、映えスポットなので、もっと使い方はたくさんあると思う。

#### 【魅力創造課：藤村副課長】

土肥委員にはいつもお世話になり感謝する。

ご意見は、しっかりと受け止めさせていただきたいと思う。至らない点が多々あって、申し訳ない気持ちもある。私どもの苦手なところは、商売の経験がない、細かいところ

で気がつかないところが、どうしても出てきてしまい、非常に申し訳ない気持ちでいるし、良くしていきたいという気持ちは持っている。見直しながら、いい形に持っていきたいと思っているので、是非、いろいろとご意見をいただきたい。改善していけるところは改善していきながら、また、今ほどアドバイスいただいた、地域の皆さんに協力してもらえらる形についても、どうしたら作っていけるのかということも含めて、一緒に考えさせていただければありがたい。

#### 【増田委員】

先ほどの土肥委員から意見は、本当に心を鬼にして述べられたものだと思う。委託業者の皆さんと出店者の皆さんがガッチリ仲間になって進めないとうまくいかない。そのときは市役所の皆さんも肩書を捨ててやってほしい。

3月15日にこの事業の一環として行われた「直江津の観光地域づくりを考えるワークショップ」には、地域協議会の人でも何人か参加したが、本来は、イベントを盛り上げていくにはどうしたらいいかは、イベントを主催している人や、参加している人から意見を聞いて、検討していかないと駄目である。最終目的は、まちづくり会社に引き継いで、このまちを活性化させるというところにあるので、それを忘れて、単に単発イベントをやって何人来たという、そういう発想は捨ててほしい。このイベントは、まちづくりにどのようにつながっていくのかを意識しながら、イベントの実験をしていくということが必要だと思う。次回、中間報告をしていただくときに、地域との連携について今回と同様の指摘を受けないように是非お願いしたい。

もう一つはうみがたりからの誘客について、うみがたりから「屋台会館でこういうことをやっています。どうぞおいでください。」という強い働きかけがない。うみがたりは教育委員会の所管だが、直江津区地域協議会では、観光部局で所管するべきだという話が過去にあった。制度上仕方がないが、教育委員会の人たちは観光の専門家ではないので、もっと強烈にうみがたりを、直江津を、あるいは上越をPRする仕掛けを作してほしい。

最後に、まちづくり会社については、おそらく今までの結果からいくと、自主事業でほとんど儲からない。売上が3,000万円あったと言っていたが、それはあくまで売上であって、そこで少し利益が出て会社としてはやっていけない。そこは、もう一度しっかりと見直さなければいけないと思う。

市の関与が深くなればこれまでの3セクのようになってしまおうと言っているが、今ま

で3セクは市が関与しすぎである。3セクを、条例でがんじがらめに縛っている。だから、自由な商売をやろうと思ってもできない。それでは儲かるわけがない。だから、そのところの制約をなくして、極力一緒に考えてやっていくというスタンスを取らないと、恐らく駄目だと思う。スピーディーな意思決定もしようと思えば、いくらでもできると思う。

まだ始まったばかりで、これからいくらでも修正ができるし、新しく来られた課長もうみまちアートのスタートから関わっており、非常によく分かっておられる方なので、そこに期待して、今出た意見を反映して、しっかりと見直しをしていっていただきたいと思う。要望なので、参考にしていただければ結構である。

#### 【磯田会長】

この事業の目的のところ、持続可能なまちづくり組織を作っていかなければいけないという明確なメッセージはあったが、委託事業の内容については言及されていなくて、ほとんどイベント委託のような形になっていた。先日、この社会実験の一環として「直江津の観光地域づくりを考えるワークショップ」が開催され、それに参加してきたが、唐突感が強いワークショップで、どういうまちづくり会社を作りたいと思っているのかの説明すらあまりなく、「どのようなまちづくり会社がよいですか。」というような感じのワークショップだった。

このまちづくり会社というものが、本当に営利だけの話であれば、まちづくり会社にする必要はない。まちづくり会社にするということは、営利ではない、あるいは非常に営利の薄い、直江津の観光発信や、地域の人たちの支え合いで運営していく等、いろいろな形態が考えられる。そういう幅広い視点で議論すべき内容ではないかと思う。

今、地域自治推進プロジェクトが進められていて、地域協議会の在り方、あるいは地域自治をどうしていったらいいかということが、やっと一年かけて市から案が提示をされた。その中では、地域の団体についても言及されている。そういうことも踏まえて、このまちづくり会社をどのように考えていくのか、あるいはもう少し地域自治に軸足を置いていきながら、まちの楽しみなどを作っていくような会社にしていくのかというあたりの議論がやはり必要だと思う。

そういう意味では、まちづくり会社がどういう形になるのかというのは、今年度の最初からまちの人たちとそういうことも含めて話をしていくスキームを作るべきだと思う。これは提案なのですぐにご回答いただかなくてもいいが、そういうことを提言したいと

思う。

**【魅力創造課：志賀課長】**

今ほどいろいろな皆さんのお話を聞いている中で、令和3年度にうみまちアートを実施したときの第1回目の会議を思い出した。皆さんお一人お一人、団体と団体、いろいろなお話をしながら実施して、それが今の地域で実行委員会を作って実施する形につながっているのだろうと思っている。そういったことも踏まえて、地域の皆さんと一緒に作り上げていきたいと思う。

土肥委員からのお話もしっかり受け止めたいと思う。

また、会長からお話があったことについては、私も即答できない。ただ、地域の中でいろいろな動きがあって、いろいろな団体があって、多様性があって、それをどうまとめていくのかという話にもつながるので、お預かりさせていただいて、地域政策課とも話をしながら、いろいろな皆さんと、いろいろな課とともに進めていければと思う。

今日は本当にいろいろな意見をいただいた。これからの事業の中で取り組み、また報告させてもらいながら進めていきたいと思う。

**【磯田会長】**

まだまだ聞きたいこと、話したいことはあるかと思うが、本日はここで閉めさせていただき、また、いろいろな場面でご意見を聞いていただければと思う。

— 魅力創造課 退室 —

**【磯田会長】**

次に、【報告事項】廃校利活用に関するサウンディング型市場調査の実施について、事務局へ説明を求める。

**【石崎係長】**

- ・資料No.2「廃校利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査の実施について」及び「【新潟県上越市】廃校施設の利活用に関するサウンディング（民間対話）型市場調査実施要領」に基づき説明

**【磯田会長】**

今ほどの報告に対し、質疑等はあるか。

**【増田委員】**

廃校利活用について間接的な質問になるが、市では建物を売買する際に、建物を撤去する費用を差し引いて売買するというを行っている。普通、民間ではそういう商取引はないし、建物を撤去するかどうかもわからない。10年使うかもしれないし、20年使うかもしれない。具体的には、観光物産センターで撤去費用分を差し引いて売買するというをやっている。今回も建物の撤去費用を差し引くということを想定しているのかどうかということが一つ。そういう取引は非常に不思議で、おかしいと思っているので、他の自治体でもそのようなことがあるのかどうなのか、あるいは根拠は何なのかということ、しっかりと示してほしいと思う。調べないと分からないかと思うので、後日の回答で結構である。

【石崎係長】

増田委員からの件は、担当課に確認して次回お答えさせていただきたいと思う。

【磯田会長】

その他に意見等あるか。

(意見等なし)

次に、【協議事項】地域協議会だよりの編集委員について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

・資料No.3「地域協議会の運営について」に基づき説明

編集委員の任期が満了となったので、今年度の編集委員を選出いただきたい。

【磯田会長】

では、委員を決めていきたいと思うが、まず、小玉委員からどんなことをしたのか、感想等があればご発言いただきたい。

【小玉委員】

昨年度、編集委員をやらせていただいた。事務局が作成した地域協議会だよりを確認して、誤字や脱字、フォントに違和感はないかなど、そういったところを確認させていただいた。

【磯田会長】

事務局で作成したものに目を通して意見を述べるといったことになるかと思う。

さほど負担になることはないので、立候補していただける方はいるか。

【増田委員】

去年、小玉委員と沼波委員に決まった経緯を忘れてしまったので、どういう経緯でお

二人にしたか確認したい。

編集委員は、たよりを自ら考え作ることができる。例えば、写真を3枚入れるとか自由にできる。そういう自由度があるので、こういうイメージでどうかということを経務局に伝えて、事務局が編集をしてみるというようなやり方がすごくいいのではないかと思う。去年の2回目のたよりは、内容が新しくてもものすごく良かった。

要は何のためにやるかということ、地域の皆さんに地域協議会が何をやっているか理解してもらうためのツールなので、タイムリーに活動をお知らせするという意識しながら進めていくといいのではないか。

#### 【磯田会長】

小玉委員と沼波委員になっていただいたのは、一期目の委員の中から若い方をお願いしたと認識している。

増田委員のおっしゃるのが一つの理想形である。その高い志を持って「私がやる。」と、おっしゃっていただける方は、挙手を願う。もしそれがかなわない場合は、委員の推薦でということ、どなたかを推薦していただける方は、理由も添えてご発言いただきたい。

まず、立候補していただける方はいるか。

#### 【古澤副会長】

立候補がないので、会長の指名ではどうか。

(委員同意)

#### 【磯田会長】

では、私から指名させていただく。

新人の方一名とベテランの方一名で組んでいただくのがいいのではないかと思うので、一期目の田中(由)委員とベテランの増田委員で皆さんいかがか。

(委員同意)

それでは、一年間よろしく願います。

次に私から地域協議会会長会議について報告させていただく。

3月27日に全地域協議会の会長が集まって会議をした。会議といっても、市から地域自治推進プロジェクトにおける、現時点での各検討項目の方策案の説明会というような形で行われた。地域自治推進プロジェクトの方策案については、皆さんにもホームページに掲載されている旨の案内がいていると思う。

地域自治推進プロジェクトは、何をしているのかよく見えないところがあるが、昨年度の早い時期に皆さんにアンケート調査があり、それぞれご意見を出している。地域協議会はこのままでいいのか、あるいはまちづくり活動を行う団体について、どのような支援が必要なのか、どのような主体が担っていくべきかなどの五つの項目について、市で今後の方策案をまとめた。方策案の説明については、今後、各地域協議会に地域政策課が来るとのことであった。

これは私の提案だが、それに先立って、直江津区地域協議会として、その資料をもとに、皆さんで読み合わせをして理解を深めたり、議論をしたりというような勉強会を行った方がよいのではないかと思っている。

そのような機会を持ってもいいかどうか、皆さんからご意見を伺いたい。

#### 【増田委員】

なかなか難しいまとめになっている。地域政策課が説明に来ても意見を言うことができず、皆さん了解されたと思われても困る。皆で読み合わせをして、「地域協議会ってこうだね、地域独自の予算ってこういう問題があるんだよね。」ということをお互いに認識した上で、地域政策課が説明に来たときに、意見や要望をしっかりと伝えるほうがいいと思う。そのことが地域協議会をもっとよく理解する機会にもなるので、是非勉強会を持つのがいいと思う。

#### 【磯田会長】

地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案は、まだ決まっているわけではない。その内容について理解を深めていく機会を持つことについて、皆さんから異論はなかったもので、事務局から地域自治推進プロジェクトの資料を各委員に配付していただきたいと思う。勉強会の日程については、事務局と調整し、相談させていただきたいと思う。

もう1点提案である。

皆さんと一年間一緒に協議会をやらせていただいた。今後も忌憚なく意見交換ができるような協議会でありたいので、懇親を深める会と、新所長、副所長も来られたので、歓迎会を兼ねた会を持ってはどうかという提案である。

#### 【古澤副会長】

一年間共に協議会を皆さんと進めてきた。会議もよいが、一杯飲んで本音を語ることで、よりよい意思疎通ができるということもある。改選前の当協議会でも一年に一回は

やっていた。今の会長の話のとおり、皆さんと懇親する機会を持ちたいと思うので、ご賛同いただければと思う。

**【磯田会長】**

賛同いただける方は、拍手を願う。

(委員拍手)

それでは日程等調整していきたいと思う。

次回の日程等について、事務局に説明を求める。

**【石崎係長】**

- ・次回協議会の日程について説明
- ・今ほどの懇親会の件も踏まえて、開始時間は午後5時からでいかがか。

**【磯田会長】**

- ・次回協議会：5月21日（水）午後5時から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。